

報 告

昭和四十九年大会の概況 日本思想史学会の昭和四十九年度大会は十月二十六日(土)・二十七日(日)・二十八日(月)の三日間にわたり、東北大学文学部を会場として開催された。第一日・第二日は総会並びに研究発表が行われた。第一日目の研究発表は次の各氏である。

- |                          |              |             |
|--------------------------|--------------|-------------|
| 1、日本思想は孤立的特有ではないこと       | 東北大学教授       | 田 中         |
| 2、神道と仏教 — 聖徳太子の宗教政策—     | 中央大学大学院      | 石 田 一 良     |
| 3、日本霊異記に見られる庶民層の仏教受容の在り方 | 東北大学大学院      | 新 保 哲       |
| 4、最澄の菩薩思想                | カルフォルニア大学大学院 | 八 重 樫 直 比 古 |
| 5、慶滋保胤の思想                | 同志社大学教授      | P・ウエツラー     |
| 6、竹取説話と浦島子伝              | 工学院大学教授      | 小 川 光 暘     |
| 7、古代における時間「今夜」について       | 国学院大学教授      | 田 中 元       |
| 8、「神社」という語の起源            |              | 西 田 長 男     |

右の研究発表終了後、総会が開かれた。事務局より昭和四十八年度決算報告がなされ、四十九年度予算案、事業計画案が提案された。審議の結果これらを承認した。総会終了後六時三十分より仙台郵便貯金会館において懇親会が催された。大会第二日目は、二会場に分れて研究発表が行なわれた。第二日目の研究発表は次の各氏である。

- |                    |         |           |
|--------------------|---------|-----------|
| 1、選択本願念仏集の成立年時について | 淑徳大学助教授 | 奈 良 博 順   |
| 2、道 元 の 俗 系        | 秋田大学助教授 | 熊 田 健 二   |
| 3、世阿弥の伝書における「道」    | 学習院大学助手 | 新 川 哲 雄   |
| 4、延徳密奏事件の一考察       | 東北大学助手  | 高 橋 美 由 紀 |

- |                            |                 |         |
|----------------------------|-----------------|---------|
| 5、茶の湯における道統観の変遷について        | 就実短期大学助教授       | 神原邦男    |
| 6、太宰 春 台 論                 | 東北大学大学院         | 高橋博巳    |
| 7、気の文化再考                   | ノートルダム清心女子大学助教授 | 藤原 暹    |
| 8、宣長学の一考察                  | 武蔵大学大学院         | 茂木 誠    |
| 9、徳川 齊 昭 試 論               | 九州大学教授          | 山口 宗 之  |
| 10、吉田松陰の歴史観                | 同志社大学大学院        | 露 口 卓 也 |
| 11、山梨県自由民権運動と小林正則          | 甲府南高校教諭         | 清水 裕 子  |
| 12、逢坂元吉郎の信仰思想              | 青山学院大学講師        | 鶴 沼 裕 子 |
| 13、神認識の問題 — 日本キリスト教史における — | 東北大学教授          | 大 内 三 郎 |
- 右の研究発表終了後、「日本人のものの考え方」と題して、西尾陽太郎氏（西南学院大学教授）、箕泰彦氏（学習院大学教授）両氏による主題講演が行なわれた。
- 大会第三日目は、霊山・二本松方面の見学旅行が行なわれ、秋晴れのなか、霊山神社、信夫文字権石、二本松城等を見学した。参加者は四五名であった。